

※「えいじやに」は、Art journeyからネーミングしました。気軽にArtの旅を楽しんでください。

地域の方々が多様な古典芸能に親しんでいただけるよう、平成23年より文化産業交流会館内に復活した芝居小屋「長栄座」。平成最後の新春公演となる「至芸～相伝の美学～」には、日本舞踊上方舞の山村流六世宗家・山村友五郎さんが出演されます。そこで日本舞踊への思いと、舞台への意気込みを語っていただきました。

## 異なる個性を放つ息子たちが 山村流をけん引する

山村流六世宗家・三代目 山村 友五郎さん

### “流儀を継いだ”のではなく“預かっている”

私が、祖母の名跡“若”の名前と六世宗家を襲名したのは、平成4年のことです。その折、早世していた母・糸に五世宗家を追贈し、20代で継承して以来、宗家を務めてきました。平成26年には、長男・侑に祖母より預かった名跡“若”の名を譲り、友五郎を三代目として襲名しました。山村流は江戸時代、歌舞伎の振付師だった初代・山村友五郎を流祖として発展してきました。二世までは男性が宗家でしたが、三世から五世は女性が受け継いでいます。この間、100年余りにわたって女

性から見た女性の美しさを表現し、女舞の流儀とも呼ばれた歴史が山村流の財産でもあります。

男の私が宗家を継いだ時、心の拠り所となったのは流祖が男性であったということでした。山村流は、例えると、かな文字のようにしなやかに流れる舞が特徴です。水のような柔らかさがありながら、止めなどメリハリのある強さも併せ持っています。先代たちが培ってきた女性目線に加えて、原点に立ち返り、男性の視点から見た女性のさまざまな魅力について表現できればと考えています。

### 個性が違う次世代の存在が山村流の強みに

相伝についてよく言われるのは“流儀を継ぐ”ということですが、私は“預かっている”と思っています。歌舞伎の流れを汲んだ初代・友五郎の表現法と、上方で発展した座敷舞という2つの要素を含めた独自の流儀を、どのように次へとつなげていくか。一曲でも多く曲を増やし、一人でも多くの門人を増やし、自分が流儀を預かった時より良い状態で次代へ継承していきたいです。

今後は長男の若が継承していくことになりませんが、跡目を受け継ぐには単に責任感だけではなく、舞が

好きでなければ無理なことだと思います。若には幼い頃からそうした事への覚悟ができていたように感じています。一方、次男の侑は、柔軟な感覚を持っています。例えば、その日のお客さまの雰囲気に合わせて振る舞いができる。場に乗っかるといいますか、舞台人としての感性が豊かなのだと思います。同じように二人に教えていますが、それぞれの個性が際立っていますので、舞に対するアプローチも異なります。そんな二人が舞台にいることがまた流儀の強みにもなっていくのだと期待しています。



Profile /山村 友五郎(やまむら ともごろう)

祖母・四世宗家・若や母・糸のもと幼少より修業する。早世した母に五世宗家を追贈し平成4年、六世宗家山村若を襲名する。

山村流は、文化・文政に三代目中村歌右衛門の振付師として歌右衛門と共に今日の上方歌舞伎の礎を創ったとされる山村友五郎を流祖とする。

平成26年、約120年ぶりに友五郎の名跡を復活し三代目・山村友五郎を襲名。同年9月、3日間に亘り襲名披露舞扇会を開催し、その成果により日本芸術院賞を受賞。女性らしい舞と評され今日では、山村の主流とされる座敷舞(地歌舞)と初世より伝えられる上方歌舞伎舞踊の2つの流れを大切に、伝統の維持継承に力を注ぐ。

歌舞伎、文楽、宝塚歌劇の振付・舞踊指導・門下育成に従事する。

平成30年10月28日大槻能楽堂において友五郎襲名より初めてとなるリサイタル「第一回 友五郎の会」を開催。

### 三人立ちでの「竹生島」は、山村流の新たな財産

私は大阪の出身で、どこかに帰省するという経験がありませんでした。家内の田舎が湖西地方にある北小松です。滋賀に故郷ができたように思っています。景色をはじめ、食べ物も好きです。郷土料理のひとつ、鮎寿司も好物のひとつとなっています。

新春公演の演目であり舞台となる「竹生島」は、滋賀の皆さまにとってよくご存じの場所だと思います。“ああ、こんな景色だったな”と、共感しながらお楽しみいただけたら嬉しいです。本来は一人立ちで舞うのですが、本公演では、私と若、侑の山村流の三人立ちで舞うように演出したもので、親子共演は初公開です。役どころとしては、弁財天

を山村友五郎、宮人を山村若、後に龍神となる船頭を山村侑が勤めます。謡曲からの題材ですが、長唄にアレンジしていますので、より親しみやすく鑑賞していただけることと思います。

同名の演目である地歌「竹生島」は五世である母が最後に舞った演目でもあり、私にとっても思い入れが強い作品ですので、これも流儀に伝わる振付は一人立ちですが、一昨年「長栄座」出演のため、二人立ちの作品に振付けし、長男・若と舞わせて頂きました。今回の公演がまた、山村流の新たな財産になる事を願っております。



地歌舞「竹生島」

### 「至芸」～相伝の美学～

日時 2019年1月19日(土) 14:30開演  
会場 イベントホール内特設舞台「長栄座」  
入場料 一般3,000円 25歳以下2,000円 [全席自由] ※当日各500円増

演目/出演 **第1部** 地歌「竹生島」 井上 安寿子  
長唄「狸々」 若柳 吉蔵 若柳 亮太  
長唄「二人挽久」 若柳 壽延 若柳 佑輝子  
**第2部** 地歌「水鏡」 井上 八千代  
長唄「竹生島」 山村 友五郎 山村 若 山村 侑

### 長栄座とは……

明治時代、長浜市に建てられた芝居小屋「長栄座」を、平成23年度から文化産業交流会館イベントホール内に期間限定の特設舞台として再現し、古典芸能に親しむ環境づくりに努めています。

## 文化産業交流会館 イベント情報

### 湖国にて ～歌と和楽器の出逢いの刻～

邦楽演奏家と声楽家が共演。新春らしい邦楽曲から水源の里米原をテーマにした新作組曲まで幅広い演目を映像とともに披露します。

日時 2019年1月20日(日) 14:00開演 会場 イベントホール内特設舞台「長栄座」  
演目 [第1部] 日本民謡による組曲(牧野由多可 作曲)  
余呉湖の羽衣伝説(三田村 正子 脚本、池上 眞吾 作曲)ほか  
[第2部] 新作邦楽組曲「米原」  
醒井宿～柏原宿～泉神社～伊吹山と三島池(池上 眞吾 作曲)ほか  
出演 横山 政美 加藤 万吏乃 福嶋 勲 池上 眞吾 平野 裕子 池上 亜佐佳 吉澤 延隆  
日吉 章吾 田嶋 謙一 大河内 淳矢 富田 慎平  
客演 野村 幹人 田原 嶺山 ゲスト 野村 祐子 片岡 リサ  
入場料 一般2,500円 25歳以下1,500円 [全席自由] ※当日各500円増



平成29年「網の里から」

### フィールドアートMedia Mix 2019

文化産業交流会館が贈るマーチングバンドの祭典。今回は京都橘高等学校が初出演!各団体によるエネルギッシュなパフォーマンスをお楽しみください!

日時 2019年1月27日(日)14:00開演 会場 イベントホール  
出演 滋賀学園中学校・高等学校 近江高等学校 京都光華高等学校 京都橘高等学校  
京都明德高等学校 JOKERS Drum & Bugle Corps  
Legend of ANGELS Drum & Bugle Corps ほか  
入場料 1階席 一般 2,000円 18歳以下 1,500円 2階席 一般 1,000円 18歳以下 800円  
[全席指定] ※当日各500円増



京都橘高等学校 吹奏楽部

## COLUMN

### ニットキャップシアター ごまのはえ 本番を前にして

いよいよ12月、滋賀県立文化産業交流会館で行われる「教室くん」の本番も近づいてきた。とはいえこのコラムを書いているのは10月末、稽古場では連日役者さんたちがセリフと格闘している。よく素人の役者さんに「どうすればセリフを憶えられるのか?」質問されることがある。残念ながら特効薬はない。特効薬はないが、麻薬はある。それは「脅し」という麻薬である。残念ながら脅されると人はがんばる、のんびり構えてた役者さんも本番が近づくと慌ててセリフ憶えをがんばる、苦い光景だ。脅されてがんばる人は、脅されないとがんばらない人になる、そういう人が増えると脅す側も巧妙になり、脅すという行為にあるネガティブ部分を巧みに隠し、相手の自主性を尊重しつつ一体感を持って、さも励ますようなふりをして脅すのだ。そういう人もいるし、そういう人を必要にする人も、いる。悲しい。



### 音楽劇「教室くん」

作・演出 ごまのはえ

日時 12月22日(土)15:00開演  
12月23日(日)14:00開演  
会場 小劇場  
入場料 一般 1,000円  
25歳以下 500円  
[全席自由]  
※当日各500円増

## 地域創造部 イベント情報

### 光と照明による能舞台の陰翳

安達原 ADACHIGAHARA

山本能楽堂(山本 章弘)と  
藤本 隆行 [Kinsei R&D] (舞台照明)  
による、更に美しくなった能の新しい  
世界をお楽しみください。

日時 2019年2月2日(土)13:30開演  
会場 大津市伝統芸能会館  
入場料 一般4,000円 青少年(24歳以下)3,000円 [全席指定] ※当日各500円増



### 第37回 滋賀県ピアノコンクール 本選

厳しい予選を通過した50名(予定)が本選に臨みます。未来の湖国を担うピアニストたちの演奏をお楽しみください。

日時 2019年2月17日(日)10:00開演(予定)  
会場 野洲文化ホール 大ホール  
入場料 入場無料  
招待演奏 久末 航(第25回滋賀県ピアノコンクール小学校高学年部門  
第1位・その他詳しいプロフィールはP7を参照ください。)

### 湖国新進アーティストによる演奏会

ザ・ファーストリサイタル2019

オーディションで選ばれた、滋賀県出身の声楽家とピアニストによるデビューリサイタル。

日時 2019年3月23日(土)14:00開演 会場 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール  
入場料 一般1,000円 18歳以下500円 [全席自由] ※当日各500円増  
出演 中西 恵子(ソプラノ) 竹内 望未(ピアノ)



中西 恵子 竹内 望未